

鳥取大会の開催にあたり

全国特別支援学校肢体不自由教育教頭会
会長 西 健 史
(東京都立城南特別支援学校副校長)



第68回全国特別支援学校肢体不自由教育教頭会研究協議会鳥取大会の開催にあたり、御挨拶申し上げます。

はじめに、今大会の後援を快諾してくださいました、文部科学省様、鳥取県教育委員会様、社会福祉法人日本肢体不自由児協会様、全国特別支援学校肢体不自由教育校長会様、鳥取県特別支援学校校長会様には、この場をお借りして心より御礼申し上げます。そしてこの場が、皆さまの学校運営や児童・生徒の学びに貢献する有意義なものとなることを願っております。

教頭会研究協議会のWEB開催は、今年度で5年目となります。全国で一斉に休校となった令和2年は本会も中止となりましたが、以降、オンデマンドによる教頭会研究会を開催しています。

肢体不自由特別支援教育においてもコロナ禍から情報機器を活用したオンラインでの学習機会が増加し、現在の新しい学習の在り方の一つとして模索されています。全国特別支援学校肢体不自由教育校長会主催の「第71回全国肢体不自由教育研究協議会 北海道大会」においても、分科会「情報教育・支援機器の活用」のみならず「授業改善」や「学習指導」など様々な分科会において、当たり前のように情報機器を活用した指導に関する情報交換が行われることでしょうか。本会の分科会の一つにある「教育課程」においてもICT機器、GIGA端末を使った指導や研修について話題となることと思われま。全国各地において、様々な学習方法が模索され、組織的に推進されてきています。その情報の共有を図り、各学校でどのように推進していくと上手くいくのか、教頭、副校長として、どのように推進していけばよいのかなど、本大会においてヒントを得ることができればと考えております。

本研究協議会では、基調講演、文部科学省講話をいただき、各校の実践に基づいた「学校経営」「教育課程」「医療等との連携」の3つの視点で協議を行います。副校長、教頭の立場から各校の実践・実情の報告に、助言者等からアドバイスをいただくことで、明日からの各学校における教育活動に、そして児童・生徒の成長に還元できる協議となることを期待しております。

結びに、基調講演、文部科学省講話、各分科会における助言をお引き受けいただきました皆様には、御多用の中での多大な御協力に感謝申し上げます。そして、今大会事務局校として惜しみない協力をいただいた鳥取県立皆生養護学校の皆様にも心より感謝申し上げ、本会会長挨拶とさせていただきます。

令和7年8月吉日